

手賀・資源を守る会による 田植え体験会が実施されました。

令和4年5月19日（木）に行方市の多面的機能支払交付金事業（※1）の活動組織である「手賀・資源を守る会」が田植え体験会を開催し、玉造小学校の5年生75名が参加しました。

体験会は、「手賀・資源を守る会」が長年取り組んでいる活動の一つで、児童のみなさんに、実体験を通して田んぼが自然環境や人々と深い関わりを持っていることや、日本の食糧生産を支える重要な役割を担っていることなどについて学んでもらうことを目的としています。



（手賀・資源を守る会による説明の様子）



（田植えに取り組む児童のみなさん）

最初は、「気持ち悪い！」「虫がいるー！」と叫び、なかなか田んぼに入れずにいる子が多かったですが、中には「ひんやりしてて意外と気持ちいいよ！」と言いながら、友達の手を引いてずんずん進んでいく子もいました。

私たちも、子どもたちに負けじと裸足で田んぼに入ってみました。慣れるまではなかなか思うように歩くことができず、何度も尻もちをつきそうになりました。

気が付けば、みんな泥んこになっていましたが、この日は全身で自然や田んぼの楽しさを感じることができました。

田んぼから上がると「やったー！！」と子どもたちの大きな歓声が聞こえてきました。「手賀・資源を守る会」によると、今回植えた苗が秋に大きな稲穂をつけたら、今度は稲刈り体験会を開催する予定とのことで、子どもたちはおにぎりにしようか、カレーライスにしようかと楽しそうに話していました。

稲刈り体験会は9月に予定されており、子どもたちもまたこの田んぼで体験学習ができることをとても楽しみにしている様子でした。

※1 多面的機能支払交付金事業の詳細につきましては当部門のホームページをご確認ください。
(<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/rokkonourin/tochi/tochikai/h25/tamenteki.html>)

